

2025年度【社会学部・社会学研究科】教員活動自己点検シート

所属（職名）		氏名	
--------	--	----	--

I. 教育（対象期間：1年）

(1) 教育活動に関する自身の基本方針

[Redacted area for basic teaching philosophy]

(2) 当該年度のシラバスに基づく担当授業科目の達成状況、今後の課題

授業科目	属性	開講期 曜講時	シラバス記載の講義概要（概要・目標・成績評価の 方法等）・講義計画に照らした達成状況	今後の課題

(3) その他教育活動上特記すべき事項（オフィスアワーの活用状況、教育方法・教育実践に関する発表・講演等）

[Redacted area for other educational activities]

(4) 教育活動に関する総評

[Redacted area for overall evaluation of teaching activities]

(5) 「組織的な対応が求められる課題」について
組織的に対応が求められる課題・取るべき対応方策について

II. 研究（対象期間：5年）

(1) 研究活動に関する自身の基本方針

(2) 研究活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題

重点目標	活動状況	達成状況	今後の課題

(3) 研究情報

researchmapへのリンク

III. 社会貢献（対象期間：1年）

(1) 社会貢献活動に関する自身の基本方針

(2) 当該年度における社会貢献活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題

重点目標	活動状況	達成状況	今後の課題

(3) 社会貢献活動の実績（当該年度）

1) 大学事業または学部等事業の一環として実施する活動

大学事業の一環としての活動	
学部・大学院等の事業の一環としての活動	

2) 学外活動

公的機関審議会委員等	
学会委員等	
その他委員	

3) その他<上記 1)、2)以外>の活動

--

IV. 大学管理運営（対象期間：1年）

(1) 当該年度における学内行政（学務活動）

		役職名・委員名	任期		
全学業務	学長・副学長・学部長・センター長、全学的な委員会等		年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
部局業務	所属する部局における主な委員会等		年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
その他			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	

教員活動自己点検の手引き

龍谷大学社会学部

龍谷大学大学院社会学研究科

I 教員活動自己点検の目的

龍谷大学は、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という2つの視点から大学の質を自ら保証（内部質保証）することが重要であると考えています。「教員個人の諸活動に対する自己点検」にあたる教員活動自己点検は、基本的にFD活動推進の一環として実施しています。加えて研究活動や社会貢献活動等に関する活動実績を積み重ね、自己研鑽として自らの資質向上・改善に繋げていくことを目的としており、目標は次のとおりです。

- (1) 各教員が自己的活動を点検し、教育研究その他諸活動の維持、改善及び向上を図る。
- (2) 前号の取組を通して、本学の教育研究活動等を活性化し、高等教育機関としての教育研究の質を保証する。
- (3) 教員活動自己点検の結果をデータベース化し、情報共有及び課題解決に活用する。

—教員活動自己点検に関する実施要項 第2条—

教育研究活動の質の維持・改善・向上の成否は、各教員の意識・行動にかかっています。したがって、教員は自らの意思と責任で、自身の活動を点検し、教育研究活動等の維持・改善・向上に意欲的に取り組むことが必要です。さらに、その教育研究活動等を支える大学の管理運営活動に積極的に参画することが求められます。こうした教員の活動は、個々の教育研究水準の維持・向上だけでなく、大学全体の教育研究活動の活性化と質向上等に繋がり、教員相互の自己研鑽や課題解決にも役立つと考えています。

II 社会学部・社会学研究科における教員活動自己点検結果の組織的活用方策

教員個人の自己点検結果は、全学的な「点検結果の活用に関するガイドライン」に則って活用しています。

1 教員活動自己点検の目的

教員活動自己点検は、教員自らの意思と責任で、教育研究活動等の目標を設定し、そのもとで自身の活動やその成果を点検し、今後の諸活動における維持・改善・向上に意欲的に取り組むことを目的とする。なお、人事評価の資料としては活用しない。

2 自己点検結果の活用

(1) 教員個人

教育、研究、社会貢献、大学管理運営等の諸活動への点検・改善のために活用する。

(2) 学部等組織（学部横断的な組織である教養教育、学部共通コース、教職センターを含む）

組織における諸活動の活性化や改善につなげるための資料として活用する。

3 教員個人における自己点検結果の活用方策

(1) 個人の教育研究活動等の維持・改善・向上のために活用する。

(2) 自己研鑽のために活用する。

(3) 点検結果の蓄積による諸活動履歴を確認するために活用する。

4 学部等組織（学部横断的な組織を含む）における自己点検結果の活用方策

(1) 組織の自己点検・評価活動を推進するための資料として活用する。

(2) 組織全体の教育力、研究力、社会的発信力を確認するための資料として活用する。

(3) FD活動を推進するための資料として活用する。

社会学部・社会学研究科所属教員の自己点検結果は、以下のとおり組織的に活用します。

(1) 自己点検結果の組織的活用の考え方

教員個人の自己点検結果は、教育・研究・社会活動等の活動が活性化するよう必要な施策を検討するために、関係組織内で共有します。また、大学評価支援室を通して、教養教育センター、学部共通コース及び教職センターに提供します。

(2) 組織的に対応が必要な課題解決に向けた活用 [社会学部]

学部として、組織的に対応が必要な課題について、自己点検結果を活用して取り組みます。具体的には、「組織的に対応が必要な課題」欄における入力内容を確認し、課題の抽出を行います。これを受け組織的に確認し、対応策を検討します。

(3) 組織的に対応が必要な課題解決に向けた活用 [社会学研究科]

研究科として、組織的に対応が必要な課題について、自己点検結果を活用して取り組みます。具体的には、「組織的に対応が必要な課題」欄における入力内容を確認し、課題の抽出を行います。これを受け組織的に確認し、対応策を検討します。

(4) FD活動推進および授業改善のための活用 [教養教育センター]

教養教育自己点検・評価委員会は、教養教育科目担当者の自己点検結果を踏まえ、Good Practice の共有や、顕在化した課題を解消する必要性の有無について判断します。必要があると判断した場合、教養教育センター執行部会議において、自己点検結果を活用し、FD 報告会の開催について検討します。

また、科目部会委員長は、教養教育自己点検・評価委員会に対して、活用目的を明らかにした上で、当該部会所管科目担当者の自己点検結果の閲覧にかかる申請を行うことができます。ただし、活用目的は、FD 報告会の企画または授業改善に限ります。

(5) 本学教職センターが目指す教員の育成に資する点検結果の活用 [教職センター]

教職センター自己点検・評価委員会の委員長・副委員長は、教職課程専任教員の自己点検結果を確認し、本学教職センターが目指す「専門性・社会性・実践的指導力に富む良心的で優秀な教員」の育成にとりわけ有効であり、組織的に情報共有することが望ましいと判断した場合は、自己点検・評価委員会において報告し、共有および改善についての検討を行います。

(6) 組織的活用方策の改善

教員活動自己点検の組織的活用方策の有効性は、組織の自己点検・評価において検証し、継続的に改善を行います。また、組織的活用方策に追加・変更が生じた場合、全学大学評価会議に諮った後に、本手引きに修正を加えます。

III 教員活動自己点検の入力内容

I. 教育（対象期間：1年）

【期首入力】

(1) 「教育活動に関する自身の基本方針」について

自身の教育活動に関する当該年度の基本的な方針・考え方を入力してください。入力にあたっては、本学の「建学の精神」と、全学・学部・研究科の「教育理念・目的」、及び「3つの方針」（「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー=D P）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー=C P）「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー=A P））との関係に留意してください。

(2) 「当該年度のシラバスに基づく担当授業科目の達成状況、今後の課題」について

期首は、担当科目に関する情報（科目名、開講期、曜講時等）が自動的に表示されます。

期首の時点で、講義概要・講義計画に沿って、学生の目標到達のためにどのような教育内容・方法の工夫が必要かなどを自主的に確認してください。

＜例＞

- ・授業内容・方法の改善（授業の目的・到達目標の明確化、教科書・情報機器の活用改善等）
- ・授業運営の工夫（時間配分の見直し、反転授業の導入等）
- ・学生の主体的な学習を促す取組の実施（アクティブ・ラーニングの導入、予習・復習を促す課題の設定等）
- ・教科書・教材の開発、レジュメ・資料の改善等

(3) 「その他教育活動上特記すべき事項」について

期首には入力は必要ありませんが、期末に「その他教育活動上特記すべき事項」（例：オフィスアワーの活用状況、教育方法・教育実践に関する発表・講演等）として、教育活動に関して特徴的な取り組みを入力しますので、期首の時点でどのようなことが考えられ、実施するかを確認してください。

＜例＞

- ・オフィスアワーの活用
- ・教育方法・教育実践に関する発表・講演等
- ・学内外 FD 活動への参加（FD 研究・研修等への参加）等
- ・学生の研究指導
- ・学生のフィールドワークの指導
- ・学生の実習指導
- ・社会見学、工場見学の実施
- ・インターンシップの指導
- ・留学支援・指導
- ・教育実習（教職課程）の指導
- ・就職指導
- ・課外活動の指導 等

【期末入力】

(2) 「当該年度のシラバスに基づく担当授業科目の達成状況、今後の課題」について

シラバスに記載した「講義概要」(概要・目標・成績評価の方法等)・「講義計画」に照らした達成状況と今後の課題を自ら点検し、各科目ごとに入力してください。点検にあたっては、①ディプロマ・ポリシー (D P) ②カリキュラム・ポリシー (C P) ③成績分布④受講者数⑤授業アンケート⑥学生の学修成果の各点に必ず言及した上で点検し、今後の課題も明確にしてください。

(3) 「その他教育活動上特記すべき事項」について

オフィスアワーの活用、教育方法・教育実践に関する発表・講演など、当該年度に行った「その他の教育活動上特記すべき事項」を入力します。どのようなことが考えられるかは、【期首入力】の項の例を参考にしてください。

(4) 「教育活動に関する総評」について

(1) の自身の教育活動に関する基本方針、(2) (3) の達成状況・活動状況の振り返りに基づき、自らの教育活動を点検し、総評を入力してください。その際、この総評での自己点検結果が、次年度の基本方針やシラバスの講義概要・講義計画に繋がるよう、教育活動の維持・改善・向上に努めてください。

(5) 「組織的な対応が求められる課題」について

組織的に対応することが求められると考える課題について記入してください。その課題に対して取るべきと考える対応方策があれば、それについても記入してください。

II. 研究（対象期間：5年）

【期首入力】

(1) 「研究活動に関する自身の基本方針」について

中長期的な視点から各自の研究活動に関する基本的な方針・考え方を入力してください。

(2) 「研究活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題」について

上記(1)の基本方針に基づき、期首に向こう5年間の「研究活動に関する重点目標」を各自設定し入力してください。重点目標は、各自の研究分野・テーマにあわせて、目標を設定してください。短期、中期、長期のいずれの目標を設定していただいても結構です。

留意事項

重点目標については、科学研究費補助金等に申請した研究内容（研究計画）を転用していただいても結構です。

【期末入力】

(2) 「研究活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題」について

各自の研究活動に関する基本方針、及び期首に設定した重点目標、当該年度（期間）の活動内容に基づき、自らの研究活動を点検してください。点検にあたっては、各自が設定した重点目標の期間・テーマにあわせ、目標に対する達成状況と今後の課題について明確にしてください。

各自、自己点検結果を踏まえ、自身の研究活動のさらなる充実に努めてください。

III. 社会貢献（対象期間：1年）

【期首入力】

(1) 「社会貢献活動に関する自身の基本方針」について

自身の社会貢献活動に関する当該年度の基本的な方針・考え方を入力してください。

(2) 「当該年度における社会貢献活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題」について

上記(1)の基本方針に基づき、期首に当該年度の社会貢献活動に関する重点目標を各自設定し入力してください。

<例>

- ・学内外における生涯学習事業への参画
- ・学外の審議会、委員会での活動
- ・学外の各種調査、研究会等への参画
- ・学内外における産官学連携活動への参画
- ・ボランティア活動への参画 等

※重点目標は1~2点程度設定することが望ましいと考えます。

【期末入力】

(2) 「当該年度における社会貢献活動に関する自身の重点目標、活動状況、達成状況、今後の課題」について

各自の社会貢献活動に関する基本方針及び期首に設定した重点目標、当該年度における活動状況に基づき、自らの社会貢献活動を点検してください。なお、点検にあたっては、目標に対する達成状況と今後の課題を明確にしてください。

各自、自己点検結果を踏まえ、次年度以降の自身の社会貢献活動の維持・改善・充実に努めてください。

(3) 「社会貢献活動の実績」について

当該年度における各自の社会貢献活動の実績（「大学事業または学部等事業の一環として実施する活動」「学外活動」「その他の活動」）を入力してください。

留意事項

1) 大学事業または学部等事業の一環として実施する活動

「大学事業の一環としての活動」欄の以下の情報は、システムに自動表示されます（毎年度1月下旬に反映）。

○REC 講座の実績

REC 講座講師、龍谷講座講師、産学連携事業（技術指導、研究シーズ発表）、プレゼン龍等

○高大連携事業の実績

模擬講義

自動表示された活動以外で、大学事業として展開している活動がある場合は、追加入力してください（例：JICA 研修生の受け入れ）。

「学部・大学院等の事業の一環としての活動」欄は学部・大学院等の事業の一環としての実施した社会貢献（社会連携）活動の実績を各自入力してください。

2) 学外活動

国や地方自治体等の審議会委員等の実績を各自入力してください。

3) その他の活動

上記 1)、2) 以外で、各自が行った社会貢献活動の実績を入力してください。

IV. 大学管理運営（対象期間：1年）

【期末入力】

(1) 「当該年度における学内行政（校務活動）」について

当該年度における大学・部局における学内行政（校務活動）について各自入力してください。

「全学業務」「部局業務」の情報は、システムに自動表示されます（毎年度6月下旬に反映）。

自動表示された以外の活動がある場合は、追加入力してください。

<例>

- ・「全学業務」：学長、副学長、学部長、センター長、全学的な委員会委員 等

- ・「部局業務」：所属する部局における委員会委員 等

教育理念・目的、入学者受入れの方針、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針との相関

社会学部の教育理念・目的<社会学部において養成する人材像>			
	入学者受入れの方針（AP）	卒業認定・学位授与の方針（DP）	教育課程編成・実施の方針（CP）
要素	①入学者受入れの方針文 社会学部では、建学の精神に基づいて、多様な価値観が錯綜する現代において、人が営む共同体である「社会」のあり方を学び、人と人、人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。	①卒業認定・学位授与の方針文 社会学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。	①教育課程編成・実施の方針文 社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。
	②入学者に求める資質・能力 このような理念のもと、IT化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸問題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力をもった人の育成をめざしている。そのため、次のような人が入学することを求める。	②学生に保証する基本的な資質・能力 ○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力	②教育内容 ○建学の精神の意義について理解している。
建学の精神の具現化		○建学の精神の意義について理解している。	○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
「知識・技能」の修得	・現代社会に関して幅広く関心をもって勉学に取り組む人	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけている。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけるために、1~2年次を中心には社会学及び社会福祉学の理論と方法、論作文成及びCTリテラシー活用に関する基礎的な講義・演習系科目を必修科目として開講する。
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上	・社会や地域に生起する諸問題を分析し、その解決を図る方法について考察する意欲をもった人	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけている。 ●また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●社会学的想像力に基づいて社会の様態を探究し、ウェルビーイングの視点から問題を発見・解決するための対話を公共空間で創りだしていく能力を身につけるために2年次に「公共社会学Ⅰ」「公共社会学Ⅱ」を必修科目として開講する。 ●学生の問題関心の方向性に即しながら、現代社会の諸問題を論理的・構造的に分析し、その解決方向を見いだす知識・能力を身につけるために、2~3年次を中心に、専門教育科目を開講する。 ●学生が自らの生き方・働き方を構想し、その具体化を進めていくための知識・技能を身につけるために、ライフデザイン科目を開講する。
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上	・社会の諸問題を「現場」から探求し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に取り組む人 ・各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識・思考力・判断力・情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人 ・専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある。専門以外の様々な事柄を学び、また様々な考え方を知り、教養を広げ、深めようとする意欲がある人 ・大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている。 ・自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し成果をあげた実績がある、あるいは解決する意志がある。	●社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができる。	●多様な他者に対して共感的態度で関わりながら、協働問題解決スキルを身につけるために、1~2年次を中心にコミュニケーション技法や社会参画技法を修得する講義科目を必修科目として開講する。 ●社会の諸問題に対して当事者意識をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができるために、3年次においては演習と実習をパッケージ化した「プロジェクト」を開講する。そして、4年次においてはプロジェクトでの学修経験を踏まえつつ、学習者個々人の問題意識に基づいた研究活動を進めるための演習科目及び卒業論文を必修科目として開講する。
		③学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法	・学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。 ・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。 ・卒業認定を受けるためには、「卒業論文」に合格しなければならない。